

令和 2 年度

「運営に関する計画」

(最終評価)

大阪市立 古市 小学校

令和 3 年 2 月

大阪市立古市小学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）
1 学校運営の中期目標

現状と課題

思考を能動的に働かせて主体的に学習する力などの学力に着実な伸びが感じられるが、語彙力や読解力、表現力などが不十分で、テストなどで十分に力を表現することができない児童が多い。継続した多くの取り組みにより児童の規範意識は大きく向上しているが、自尊感情の向上は未だ十分ではない。授業や体育的な活動の工夫により児童の体力は徐々に向上している。児童・保護者の健康な食に対する意識は高いが、家庭での生活習慣に課題がある児童が少なくない。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成32年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 平成32年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 平成32年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 平成32年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 平成32年度の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を平成28年度より5%向上させる。（施策2 道徳心・社会性の育成）
- 平成32年度の校内調査において、学校が楽しい（どちらかといえば楽しい）」と答える児童を90%以上にする。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成32年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。※標準化得点（各校の平均正答率-大阪市の平均正答率）÷標準偏差×10+100（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- 平成32年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- 平成32年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- 平成32年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- 平成32年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるソフトボール投げの平均の記録で、全国平均を上回る児童を前年度より増やす。（施策7 健康や体力を保持増進する力の育成）
- 平成32年度末の校内調査における「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を80%以上にする。（施策7 健康や体力を保持増進する力の育成）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 令和2年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を80%以上にする。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

学校園の年度目標

- 令和2年度の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を70%以上にする。（施策2 道徳心・社会性の育成）
- 令和2年度の校内調査において、学校が楽しい（どちらかといえば楽しい）」と答える児童を85%以上にする。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）
- 令和2年度の校内調査において、「地震や火災などの非常災害が起こった時にどう行動すればよいか判断できる」と答える児童を70%以上にする。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現）

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

- 令和2年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。※標準化得点（各校の平均正答率-大阪市の平均正答率）÷標準偏差×10+100（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組）
- 令和2年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント減少させる。
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- 令和2年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より1ポイント増加させる。
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- 令和2年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。
(施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組)
- 令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるソフトボール投げの平均の記録を、前年度より0.5m向上させる。
(施策7 健康や体力を保持増進する力の育成)

学校園の年度目標

- 令和2年度末の校内調査における「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を前年度より向上させる。（施策7 健康や体力を保持増進する力の育成）
- 令和2年度の校内調査において、特に課題である立ち幅跳びの平均の記録を、前年度より5cm向上させる。（施策7 健康や体力を保持増進する力の育成）
- 学習に対する興味・関心を高めるために、教科の学習に関連した体験学習を取り入れる。

大阪市立古市小学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した	B : 目標どおりに達成した
C : 取り組んだが目標を達成できなかった	D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を<u>95%</u>以上にする。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現） ○ 令和2年度の小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を<u>80%</u>以上にする。 (施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現) ○ 令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現） ○ 令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現） <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年度の校内調査における「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を<u>70%</u>以上にする。（施策2 道徳心・社会性の育成） ○ 令和2年度の校内調査において、学校が楽しい（どちらかといえば楽しい）と答える児童を<u>80%</u>以上にする（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現） ○ 令和2年度の校内調査において、「地震や火災などの非常災害が起った時にどう行動すればよいか判断できる」と答える児童を<u>70%</u>以上にする。（施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現） 	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>校内調査や児童の観察等によって、いじめが認知された場合、学年・管理職・いじめ対策委員会との情報共有を行い、指導の方針や進め方等を確認し、迅速に対応する。指導の経過は記録に残し、解消されたと判断されるまで指導を続ける。</p> <p>また、いじめにつながる児童同士の関係や事象がないかを日常的に把握するため、「いじめアンケート」などの取り組みを行う。</p> <p>指標（学校再開後を想定して）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめ対策委員会を毎月行う（企画会時）。 ・学年会等で、いじめ指導の進捗状況や児童の様子について情報共有する。 ・「いじめアンケート」を毎月行う。 <p>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>児童・教職員とともに、学校生活の様々な場面でのきまりが意識できるよう、校内の掲示物を工夫し、児童に毎月の生活カードで学校生活を振りかえらせ、きまり意識を高める。</p> <p>特に、自発的にあいさつができるようにするための手立てとして、全校でのあい</p>	B

さつ週間の取り組みや、具体的な生活・学習場面を設定したあいさつの指導を行う。また、身の回りの物を大切にできるようにするための手立てとして、具体的に「くつやスリッパをそろえる」「ろうか・階段で歩いて右側を通る」「自分からあいさつをする」「自分のものやみんなで使うものを大切にする」ことを中心に指導を進める。

指標（学校再開後を想定して）

- ・看護当番日誌や生活指導連絡会、各アンケートでの自己評価などにより達成状況の確認を行う。

取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】

取組内容①をもとに、暴力行為を複数回行う児童を把握し、暴力行為に至る原因や経過などを丁寧に聞き取る。当該児童の思考・行動傾向を把握するとともに、教職員・保護者・スクールカウンセラーなどと連携を取りながら、行動の改善につなげる。

また、「命を大切にする」「いじめをゆるさない」という強い心を育てるため、学年内で課題を明確にし、人権教育の学習を充実させる。道徳推進教諭を中心に、長期休業中の研修を計画・実施するとともに、学年内で教材検討や授業交流等を行うなどして、道徳教育の指導方法の向上を図る。

指標（学校再開後を想定して）

- ・いじめ対策委員会を毎月行う（企画会時）。
- ・週1回の学年会や日々の活動等で、いじめ指導の進捗状況や児童の様子について情報を共有し、未然防止・早期対応を徹底する。
- ・「いじめアンケート」を毎月行う。
- ・学年内で授業交流等を行い、学習参観では全学級で年1回の授業公開を行い、保護者の道徳科に関する理解充実を図る。
- ・年1回の全体研修の実施と校外研修への積極的な参加、学年内の教材検討や授業交流により、道徳教育の指導方法の更なる工夫を行う。

B

取組内容④【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】

新たな不登校児童の割合を減らすため、欠席状況や児童の観察等から不登校傾向が認められた場合には、学年・管理職と情報を共有し、指導の方針や進め方等を確認して早期対応に努める。原因の特定・解消を進める中で保護者との連携を図りつつ、保護者への指導が必要な場合は管理職・教職員・関係機関とも連携を図る。また、不登校につながる児童同士の関係や事象がないかを日常的に把握するため、月1回の「いじめアンケート」をはじめ、聞き取り等、自称に応じた的確な取り組みを行う。

A

指標（学校再開後を想定して）

月ごとに3日以上、累積1学期で10日、2学期で20日以上欠席した児童については、生活指導連絡会で情報を教職員で共有し、「児童理解・教育支援シート」を作成、活用して登校できるように継続的に指導を行う。

取組内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】

児童の自尊感情・他尊感情を高めるための手立てとして、自然体験学習、たてわり班活動、異学年交流や地域との交流を計画し実践する。「他者への奉仕（ボランティア活動）」「助け合い・学び合い」「いいところ見つけ」などの活動を各学年で取り組むとともに、芸術鑑賞会や、委員会活動で花を育てることを通して、豊かな心の育成を図る。

B

指標

生活指導連絡会の記録での指導者からの評価や、各アンケートでの自己評価、児童同士の相互評価などにより達成状況の確認を行う。

取組内容⑥【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】

児童の防災意識を高め、日常生活に生かせるように、各学年で防災・減災につい

て学習する取り組みを行う。		B		
指標（学校再開後を想定して） 各学年とも年1回以上、防災に関する取り組みを行う。				
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析				
取組内容①	<ul style="list-style-type: none"> いじめ対策委員会は企画会以外でも必要に応じて開催した。 スクリーニング会議やいじめ対策委員会も案件ごとに開催し、教職員の中で情報共有することができた。 			
取組内容②				
取組内容③	<ul style="list-style-type: none"> 生活アンケートの実施はなかったが、学校アンケートでの「きまりを守る」に関する項目では、公共の物を大切にしていると93%の児童が感じていた。教職員が大切にしたきまりは、月目標に表現したことも効果的であった。 <p>⇒暴力行為のガイドラインの再確認が必要である。</p>			
取組内容④				
取組内容⑤	<ul style="list-style-type: none"> 本年度、該当する児童がほとんどなかつたため、教職員のほとんどが「児童理解・教育支援シート」の活用状況が分かりづらかった。 <p>⇒高学年でも、自己肯定感や自己有用感が高まる取り組みをする。高学年の自己肯定感を高めるためにも従来のたてわり班活動は非常に大事な活動であることが分かった。</p>			
取組内容⑥				
次年度への改善点				
本年度当初に立てた指標は、コロナ禍の状況下で実施困難なものが多かった。アンケート結果と、それに対する取り組みが必ずしも結果に結びついているといえないものもある。来年度の状況を見据えて指標を考え直し取り組んでいきたい。				
<ul style="list-style-type: none"> 自尊感情を高めるために異学年交流や体験活動は取り入れた方が良い。コロナ禍の状況で可能な方法を模索していく必要がある。 「いじめアンケート」は年度当初に基準やガイドラインを共通理解しておく必要がある。 自己肯定感を高めるための手立てを具体化する。 生活カードに代わるものが必要？ スマートスクールの導入を活用し、児童の「いいところ見つけ」を教職員間でもおこない情報を共有する。 				

大阪市立古市小学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A : 目標を上回って達成した C : 取り組んだが目標を達成できなかった	B : 目標どおりに達成した D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった
---	--

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。 ※標準化得点（各校の平均正答率-大阪市の平均正答率）÷標準偏差×10+100 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組) ○ 令和2年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も<u>1ポイント減少</u>させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組) ○ 令和2年度の小学校学力経年調査における正答率が市平均を2割以上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より<u>1ポイント増加</u>させる。 (施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組) ○ 令和2年度の小学校学力経年調査（校内調査）における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童（生徒）の割合を、前年度より増加させる。（施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組） ○ 令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題であるソフトボール投げの平均の記録を、前年度より0.5m向上させる。 (施策7 健康や体力を保持増進する力の育成) <p>学校園の年度目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 令和2年度末の校内調査における「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を前年度より向上させる。 (施策7 健康や体力を保持増進する力の育成) ○ 令和2年度の校内調査において、特に課題である立ち幅跳びの平均の記録を、前年度より5cm向上させる。（施策7 健康や体力を保持増進する力の育成） ○ 学習に対する興味・関心を高めるために、教科の学習に関連した体験学習を取り入れる。 	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容① 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 国語科、算数科の学習において基礎・基本の領域を絞り、全学年で揃えた漢字・計算ドリルを効果的に活用しながら基礎学力を全学年一貫して育成していく。 <ul style="list-style-type: none"> ・朝の学習 : (火) 漢字ドリルを用いた反復学習、視写など、 	B

<p>(金) 計算ドリルを使った学習、確かめテスト、百マス計算など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日々の音読、読書週間による読書の推進 ・学期末：ドリル付属のまとめテスト <p>○ 社会科の学習では、カラーの学習プリントを用いて学習を進めることで、知識の定着や思考力の育成を図る。</p> <p>○ 習熟度や少人数指導の形態での学習を積極的に行い、児童の興味や理解度に応じた発展的な学習を行えるようにする。</p>	
--	--

<p>指標（学校再開後を想定して）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の小学校経年調査における正答率が市平均の7割に満たない児童を学校全体で7%未満にする。→校内テスト平均の7割に満たない児童を学校全体の7%未満にする。 ・評価の方法や学習プリントの活用方法などについて、全学年で年に2回ほど打ち合わせの機会をもつ。 ・3年生以上の学年で、体験的な学習を年に1回以上行う。 	
--	--

<p>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 研究を通して対話的を通した学びについて授業改善を行う。 ○ ノートや黒板、ICT機器などを用いて、対話によって考えがどのように広まったり深まったりしたのかがわかるように授業において工夫する。 ○ またそのために、教員基本セミナーや自主研修会などに積極的に参加し、授業についての交流を行う。 	A
--	---

<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全教職員が研究授業もしくは公開授業を年に1回以上行う。 ・授業に関する記録を月に1回以上残す。 ・研修会に学期に1回以上参加する。 ・大阪市学力経年調査や学校アンケートにおいて「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して肯定的に回答する割合を75%以上にする。 	
---	--

<p>取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進させる力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○体力向上アクションプランのもと、体育の授業を実施し、運動が好きになる授業づくりに努める。 ○運動カードの活用など、体育の授業をはじめとする学校生活の中（外遊び等）で、運動能力、体力の向上に取り組む。 ○全学年、立ち幅跳びの測定を実施する。 	B
--	---

<p>指標（学校再開後を想定して）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校アンケートの「運動が好きですか」の質問に「よくあてはまる」等、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。 ・前年度のスポーツテストを比較し、立ち幅跳びの平均の記録を5cm以上向上することをめざす。 	
---	--

<p>取組内容④【施策7 健康や体力を保持増進させる力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○保健指導や栄養指導といった基本的な生活習慣の育成の取り組みを通して、児童の健康保持増進をはかる。 ○手洗い・うがいの大切さを知り、自ら行う習慣をつけられるようにする。 ○「ほけんだより」や「食育つうしん」などの配布を通して、家庭との連携、啓発を行っていく。 	A
---	---

指標（学校再開後を想定して）

- ・健康チェック週間を学期に1回、健康チェックの日を月に一回実施し、よりよい健康習慣が身につく児童をふやす。
- ・校内アンケートにおける「手洗い、うがいをし、健康に気を付けていますか。」の質問に「よくあてはまる」等、肯定的に答える児童の割合を80%以上にする。
- ・年1回以上各学級で栄養教諭が食育を行う。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取り組み内容①

1) 計算ドリル、漢字ドリルの全学年購入

○ドリルを用いて繰り返し学習に取り組むことができたので、基礎基本の定着につながった。また、付属の小テストがあったことで、計画的かつ効率的に指導することができた。さらに、付属の問題プリントを用いて追加の反復練習も行えたことから、これらの購入は子どもの学力向上に効果があったと言える。

△第1学年にとっては、書き込みするには余白が小さく書き込みづらい部分もあった。

→来年度の購入は、第2学年～第6学年までは継続する。

第1学年については、要再考である。

2) 理科、社会科のカラーテスト

○カラーのテストにすることで、読み取りの苦手な児童や支援を要する児童にとって問われている内容理解が進み、答えやすくなかった。

△テストの内容が簡単だったので、平均点が90点台の時もあり理解力の定着を図れたかについては疑問が残る。

△第6学年の社会科テストでは、3月分までだったので、評価に入れるために指導の進度を早めなければならず負担が大きかった。

→社会科のテストは、同じものを購入。可能ならば、第6学年の3月分はカットする。

理科のテストは、カラーを使用したいが難易度がもう少し高いものを探す。

3) 朝の学習

○朝の学習を定期的に行つたことで、児童は朝の10分間を学習時間と捉えるようになった。

△体温チェックなどで、取り組む時間が確保できなかつた。

→慌ただしい中、朝の学習を行うことは、子どもへの負担の増加にもつながる。来年度は体温チェックなどが無しなれば行う。

4) 習熟度別・少人数指導

○習熟度別に分けて行つたことで、それぞれのニーズにあった指導を展開することができた。

△分け方に工夫が必要。

5) 体験的な学習

○どの学年も社会見学などの校外学習を行い、体験的な学習を行うことができた。

6) ・校内平均7割未満の児童の割合（同一母集団で比較した結果）

学年	4	5	6
R1割合(%)	6.8	2.5	7.6
R2割合(%)	4.1	2.6	2.6

前年度よりも2学年で1ポイント以上減少した。

・単元テストの平均正答率

学年	4	5	6
R1 平均点	78.6	81.5	82.1
R2 平均点	79.6	84.0	88.1

どの学年も平均点は前年度より向上した。

・単元テストの平均正答率を 2 割以上上回る児童

学年	4	5	6
R1 正答率 (%)	4.1	0.0	0.0
R2 正答率 (%)	2.7	0.0	0.0

どの学年も前年度を上回らなかった。

取り組み内容②

- 研究授業や公開授業は、全教員が 1 回以上行った。
 - 授業記録を 2 単元で取り、板書記録やノート記録を残すことで、児童の学びの変容を見とることや、教員の授業力の改善に生かすことにつながった。
 - 学校外の研修会への参加は、コロナの影響あまり行えなかつたが、校内では部会やセミナーなどへの参加、授業参観を定期的に行うことができた。
 - 対話に関する学校アンケートでは、低学年 87%、高学年 82.6 % と目標の 75% を超えることができ、対話を通して学びの深まりを実感していると言える。
-
- △ 自分の意見を述べることや、自分の意見が周りの人に受け入れられているという実感は、高学年においては 60% 台と低い。自信を持って意見を言える子どもの育成が課題である。
 - △ 対話による学びを児童の 85% 肯定的に受け止めているが、教員アンケートでは 60% と低い。活動回数が減ったことが要因として考えられるが、振り返りを書くことや、実際のモノを通して他者の考えに触れることも対話として捉えていくことも必要だ。来年度は、振り返りを通して、児童がどのように変容したのか教員間で指標を持てるようにする。

取組内容③

コロナ渦で制限される活動が多かつたが、各学年工夫して体育をしたり外遊びをしたりすることができていた。しかし体力向上アクションプランをもととした体育の授業はほとんどの学級が実施できなかった。

学校アンケートの「運動が好きですか」の項目に肯定的に答える児童の割合は、低学年 89 パーセント 高学年 83 パーセントと 80 パーセントを上回った。

全学年、立ち幅跳びの測定を実施し、平均の記録が 5 cm 以上向上することができた。

大阪市の目標にソフトバール投げの項目があるが、休み時間にドッヂボールをする姿を見かけないなど、日常での投げる活動が少ない。

取組内容④

健康チェック週間に学期に 1 回、健康チェックの日を月に一回実施することができた。

校内アンケートにおける「手洗い、うがいをし、健康に気を付けていますか。」の質問に「よくあてはまる」等、肯定的に答える児童の割合は、低学年 95 パーセント高学年 93 パーセントと目標の 80 パーセントを上回った。コロナ渦の影響もあり、健康意識が高まり手

洗いの習慣は身についてきている。

健康週間での肯定的回答が1学期より3学期のほうが上がっていた。

- ・ 年2回各学級で栄養教諭が食育を行った。

次年度への改善点

取組内容①

第1学年の算数ドリルの購入に関しての検討

理科のテストの検討（難易度を上げる）。

取組内容②

対話的な学びに関して、グループ学習の形式にとらわれず、全体交流や振り返りの共有、ICTを使った交流などで思考の深まりを捉えられるようにする。

取組内容③

体力向上アクションプランを授業で実施しやすいように内容を見直したり、教員への周知をしたりする必要がある。

今年度は、学年にあった運動カードの作成ができなかつたので、次年度は運動カードを作成することで、運動能力、体力の向上を目指す。

体力テストの記録の比較対象に対して話を深める必要がある。

取組内容④

家庭でのICT機器の使用時間の増加や睡眠時間の減少など、衛生面以外でもよりよい健康習慣が身につくように取り組んでいく必要がある。